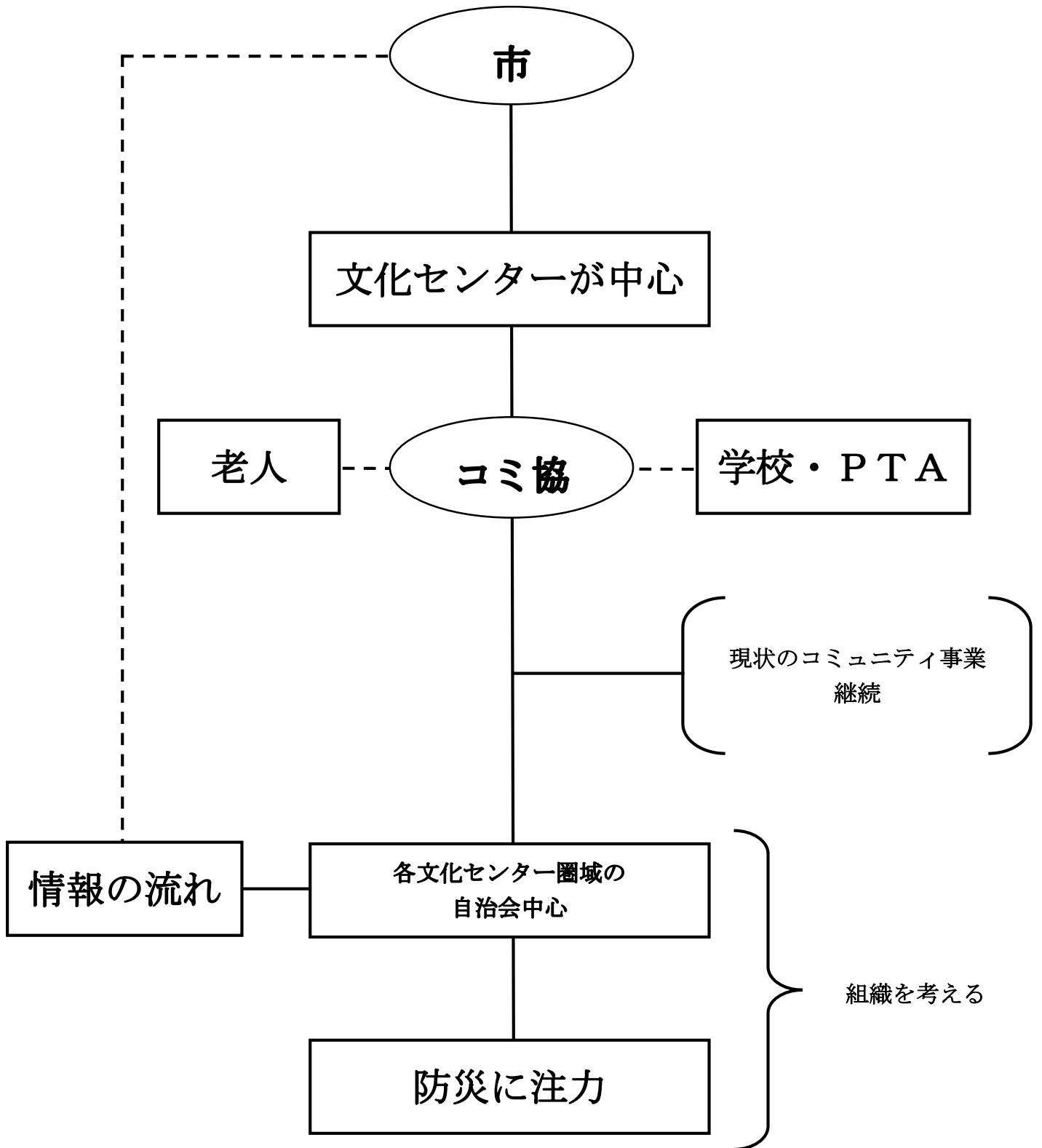


各グループから出た意見等について

第1グループ  
市のまとめ



## 第2グループ

### 市のまとめ

#### キーワード「接着剤」

- ・文化センターやコミュニティ協議会に求められるものとして、地域住民や団体などをつなぐ役割を求める意見が多い。文化センターが中心（トップ）になるのではなく、つなぐ役割が大事である。

#### 文化センターに求めるもの

- ・市民の力を引き出す、またその第一歩を踏み出すための新たな企画。
- ・有用な人材の発掘。
- ・市民が容易に集まれる雰囲気醸成し、積極的に開放する。
- ・高齢者・子どもの見守りなどを促すため、母親・父親との交流を図る。
- ・社会福祉協議会や地域包括支援センターとの積極的な連携。
- ・防災や防犯発動の拠点。（防災訓練の充実や防犯マップの作成など）
- ・二次避難所としての機能充実のため、地域包括支援センターと連携を図る。
- ・自治会やコミュニティ協議会など、高齢化に悩む団体に対して世代交代の手助け。
- ・自治会の加入促進。

#### コミュニティ事業・コミ協活動に求めるもの

- ・子どもの事業の充実。（必ず親と一緒に来るため）
- ・役員の高齢化や古い体質により、個人や若い人の参画がしにくい。
- ・新たな市民団体や組織との連携や交流を図る。
- ・高齢者の見守りを学生（中・高校生）主体とするためのコミュニティ事業を行う。
- ・将来の文化センターのため、コミュニティ事業で若者の参加を促す。
- ・現在のコミュニティ事業は自治会が中心となりがちなので、文化センターが中立の立場で様々な人が対等に参加できるようにする。
- ・事業などの周知を工夫する。
- ・事業に地域包括支援センターも参加してもらう。

### 第3グループ

#### 市のまとめ

##### 文化センターに求めるもの

- ・文化センターを中心として、地域の各種団体との交流により、地元密着型のセンターを目指す。
- ・高齢者と子どもをつながりを考える。
- ・高齢者や子どもが気軽に楽しく集まれる場を作り、子ども達には遊びなどを指導する方をもっと多く置く。

##### コミュニティ事業・コミ協活動に求めるもの

- ・個人でも参加しやすいコミ協事業や活動とする。
- ・コミ協のメンバーの見直しが必要。
- ・コミ協のメンバーには、地域の人材・技術・知識を幅広く求める。(幅広い人材活用)
- ・自治会は他の自治会と知り合い協力体制を構築するため、必ずコミ協に加入すべき。
- ・高齢者と子どもと一緒に遊べる企画を考える。
- ・コミ協と学校との連携強化。
- ・事業の参加者が固定している。事業内容や周知方法も含め、検討が必要。

## 第2グループ

### 全ての意見（箇条書き）

- 防災用品や備蓄品などの情報は既成団体の一部の人だけしか情報をもっていないので、有効に活かさない。地域での周知活動のための企画を誰が主導するのか。
- 地域の拠点としての文化センターはあるものの昨今の世相では近隣との接点がないこともあるので狭い地域に集めるのは難しい。
- 市民の力を活用するため、新たな発想で、今まで参加したことのない市民を引き出す企画がないものか。
- 意識ある市民は決して少なくはないと思うが、その第一歩を踏み出すためのきっかけがつかめない。文化センター企画で最初の第一歩の講座ができないか。
- 地域の拠点として市民を結集させるためには学習目的の講座などを企画して容易に集まれる雰囲気を醸成して、それを発展させることにより効果の拡大を図る。
- 既成団体も役員が高齢化して次世代の企画が必要なのだが若い人を引き込めない。
- 自治会やコミ協などの古い体質の方ばかりでは個人は参画しにくい。
- 市広報紙は有効な情報が多い。しかし配布率が少ないのでは発行効果はあがらない。何らかの方策を考えて全戸配布を検討すべき。NPOなどを活用すれば経費の増大も抑えられる。
- 既成団体の活動は地域に有効なものとは思われるが、傍から見れば特定集団の内部活動としか見えない場合がある。情報公開に工夫も必要である。
- 一個人が参加しやすい仕掛けを考えるために既成団体は足元を顧みることも考えるべき。
- コミュニティ事業は市民をつなぐ接着剤となるが、子どもを媒介すると市民は結集し、連帯しやすい。
- 地域住民が連帯しなければいざというときの共同行動は成り立たない。日常的な交流を深めるために文化センターを積極的に開放する姿勢を鮮明に。
- 地域住民が近隣との連帯感を深めること、連帯することによりいかなる効果があるか等の啓発活動を市と市民が協働して積極的に取り組む。
- 地域の事業をリードしている団体ばかりではなく、新たな市民団体や組織との連携や交流を求めるべきである。
- 文化センターは地域住民をつなぐ接着剤としての役割を持つ。
- 文化センターを拠点にして地道な防災訓練などを重ねることにより地域の交流を深めることも必要である。

- 地域の中学・高校・大学の学生に、文化センターにおける催し物への参加を促していく。
- 防犯・防災においては各団体との接着剤となれるようにする。
- 自主防災組織への取り組みについて自治会等との懇談会を図り、各自治会との範囲の切れ目がないよう取り組む。
- 役員や会員の育成
- 他地域を参考にした行事を
- 高齢者の見守りを中・高校生を主体としたものとするためにコミュニティ事業としての学生の注意喚起を考えたい。
- コミュニティ事業における若者の参加を促し将来の文化センターの運営を考慮する。
- 子ども達の居場所作りによる母親・父親との交流を図り、高齢者・子どもの見守り等を促す。
- 学校関係との連携、小中学校、保育所等、PTAも含め
- PTA・おやじの会・青少対等とのかかわりによる地域団体への働きかけをする。
- 広報紙の全戸配布
- 防犯マップ作成による安全対策
- 多数の参加者集め
- 大人と子どものつながり若者の参加
- 各文化センターが発信する広報紙を作り地域に配布すれば、地域の人が自治会へ加入の有無や自主グループの参加不参加、関係なく情報が入ると思う。あわせて、市の広報紙も、全世帯無条件配布とすべき。誰もが、府中市、地域の情報を得ることができるようにすべき。
- 青少対の地域協力者の募集で、一般の人の参加を文化センターが募集したらどうか。
- コミュニティ事業では、自治会が中心になりがちなので、文化センターが中立の立場でいろいろな人が対等に参加できるよう働きかける。
- 防災に関しては、文化センターは二次避難所なので、その立場での参加をしてほしい。地域包括センターなどと、連絡を取ったりして、参加したらいいと思う。
- 文化センター文化祭に、地域の幼稚園の展示をするのは、いいと思った。文化祭に子どもの親などが必ず来て、地域の行事に無関心な人も地域の行事を見ることになり、こういうことがまず第一歩と思う。
- コミュニティ事業においては、普段、文化センターを利用している人が他の団体の人と顔を合わせることができるよう告知してもらえるといいと思う。

- 文化センターは、地域の中心になるのではなく、いろいろな団体や個人の接着剤になる存在であるべきと思う。
- 高齢者の見守りのため、地域の包括センターもコミュニティ事業に参加してもらおうといいと思う。
- 自治会やコミ協などの世代交代の手助け（情報提供、人と人との橋渡し）
- 文化センターのあり方に、今後「社会福祉協議会」や「地域包括支援センター」も巻き込むことが重要になってきている。
- 高齢者の見守りは、「自治会」や「老人クラブ」が担当しているが、文化センターが関るといえるのはどうすることか不明である。
- 「子ども登下校の見守り」は各学校と地域自治会ごとに実施されており、文化センター圏域としての活動は範囲が不明となって難しい。
- 文化センターのかかわりは人物本位になっているので、いかに有用な「人」を発掘するかに関係している（圏域自治会や町会に働きかける）。
- 「自治会」や「町会」、「管理組合」等を組織していない地域を構成させる活動をする。

### 第3グループ

#### 全ての意見（箇条書き）

- 個人でもコミ協事業の参加する意思のある人は積極的に参加し活動してもらいたい。
- コミ協は地域の団体との結びつきはあるが個人に対してはなんら関係がないので、個性ある個人とは係っていく必要がある。
- 地域文化祭は、減少傾向で参加者が少なくなっている。
- コミュニティ協議会のメンバーを見直しすべきときがきている。
- 文化センターと自治会が関係を強くするためにはコミ協に必ず自治会が加入すべきだ。
- 高齢者と子ども達の共同遊びを企画する事業を持つべきだ。
- コミュニティ事業の中で防災訓練は毎年同じやり方であるが、参加者も同じ人が出てくるだけだ。
- 地域団体（老人会、子ども会、趣味の会）等は防災訓練等に参加して活動すべきだ。
- コミ協事業をいろいろ行うことによって、色々な自治会の方々が顔合わせができ、知り合えるので事ある時には協力し合えるのではないかなと思うています。
- 防災に関しては、毎年文化センターで行っている事業と、各地域の学校や各施設で行っている事業と、それぞれのつながりをどうするかが問題。近頃は各町内でも行っているようなので、それとの係わり合いは？
- 防犯、防災も見守りもコミ協事業の中に全部入っていて、コミ協としては色々な事業の中で実際に行っています。
- 文化センター利用で各地区の自治会等に入っていないような人がどのくらい利用しているのか。そういったことが分かればコミ協の活動も少し考え方を改めて活動したい。
- センター利用の高齢者と児童館利用の子どもとのつながりがあるようにすればいいのでは。それをコミ協がするのか、センター事業としてするのか。
- 今年のスポーツ大会に三校の校長先生を招待したところ、三校共に校長先生がおいでになり子ども達が大変喜びました。
- コミュニティ事業の拡大と地域への周知、運動会、夏祭り、文化祭、敬老の集い等を実施しているが、地域への行事の周知が不足している。
- 防災訓練等もコミュニティ事業として年2回実施しているが、平日、土日のせいもあり、参加者が少ない。また、町会でも年2回やっており、訓練は数多くしたほうがいいのは理解しているが重複感があり、またかという人もいる。問題は訓練参加しない人をどう集めるか。

- コミ協のメンバーは、町会、老人会、子ども会、PTA、自主グループで構成しているが、地域の民生委員・社協の地域協力員、青年会、消防団等もメンバーに加え、幅広い人材、技術、知識を求めると共に、文化センターを中心として地域の各種団体との交流により、地元密着型の文化センターが出来る。
- コミュニティ協議会のメンバーに社会福祉協議会、交通安全協会等も加え、各々の知識経験を文化センター事業に反映させる事により、防犯や高齢者、子どもの見守り事業などを充実できるのではないか。
- コミ協事業の中に「ふれあい事業部会」があり、主に高齢者を対象とした行事をやっているが、演芸等だけでなく、社会不安や疾病等の問題を取り上げることが出来るのではないか。
- 「子ども部会」でも節分、七夕、バードウォッチング等の行事があるが、交通安全協会とタイアップして交通ルール自転車のルール等の体験、講話等を行事としてやってはどうか。
- 事業については、現在年間18事業を行っているが、内容を絞り充実した事業をやりたい（多すぎるのでは?）。
- コミ協運営について、自治会の委員が出席しない方が多い。もっと多くの方が参加できる体制を作ってほしい。
- 高齢者が集まり、生きがいを見出せるような、歌や縫い物等、出来る場を作るべきである。
- 自治会と積極的に関わっていきたい。現在も多くの方を出しており、有効な活動を行っている。ただし、個人に関しては少ない。
- コミ協運営に自主活動者の方を積極的に活用する方法をもってほしい（幅広い人材の活用を図る）。
- 事業については各文化センターの特色を活かした事業を推進しては。
- 現在、コミ協の運営に参加する自治会と、全く参加しない自治会とに分かれている状態である。皆平等に参加できるような方法は？
- 子ども達が自由にのびのびと遊べる場と、指導する方をもっと多く置くべきである。
- 高齢者向けに地域サロン等、おとしよりがたのしく集まれる場を作って欲しい。
- 文化センターでの防犯に関しては、もっと積極的に活用すべきである。
- 防災訓練はいくらやってもいい、どこでやってもいいと思う。